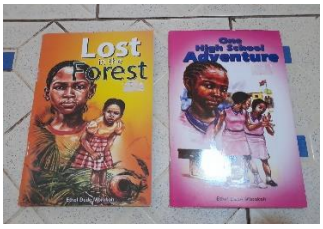
Your future is made by reding books11号

2023年7月20日

短い短い３学期が始まりました。新学期に購入した図書を持って行き、ちょうど図書館を利用していた中学１年の生徒に本の整理整頓と併せて書架に入れてもらいました。今回納めた絵本に「赤ずきんちゃん」があります。幼稚園児クラスと低学年クラスに読み聞かせをして人気だった「おおきなかぶ」と同様に文字が描かれてなく絵のみで内容を伝えるものなのですが、私が知っている赤ずきんちゃんの内容とは少し違いました。オオカミはお婆さんを呑み込んだためにお腹をハサミで切られて石を詰められ、目覚めたオオカミは「あー食べた食べた。のどが渇いた。」と川に向かいお腹の重みで川に落ちてしまうというのが私の知るストーリーですが、おばあさんはクローゼットに押し込められ、オオカミは最後縄でくくられる設定です。数か月前に家庭教師先でその子どもの家にある昔ばなしの『さるかに合戦』を読んで聞かせた時も私の知っている話しと違っていました。猿に青い柿を投げつけられ、それによって命を落とした親ガニの仇をとるための話しなはずが親ガニは重傷を負い、子ガニが臼らの助けを借りて猿を懲らしめ猿が反省する話になっていました。登場人物も牛糞が昆布に変わっていました。牛糞がなかなかいい仕事をするのに・・・と思ったのですが、これが俗にいうコンプライアンスなのかと思いました。日本の昔ばなし、海外の童話にでさえコンプライアンスを気にし、内容を変えざるを得ない状況なのは、昨今の凶悪な犯罪を引き起こしかねなくなってきているからなのか？と思うと残念でなりません。日本も海外も昔から伝わる話しや童話の内容は現代には相応しくないのでしょうか。そんなこんなで話しはガラリと変わり、ここ最近ガーナ出身の作家さんによる絵本を学校図書に入れています。主人公が困難を乗り越えていくストーリーや、昭和生まれの私が子どもの時に観ていた『あばれはっちゃく』のような男の子が主人公でいろんな問題を起こしながらも解決するストーリー仕立ての物です。この『あばれはっちゃく』も児童向け小説がドラマ化されたものであり、やはり原点は読み物＝小説の大切さがうかがわれます。今回納めた図書にも小説があります。短い３学期ではありますが、残り少ない中学生生活の中で小説好きな中学３年生の生徒の目に学校生活を舞台にした小説やかたつむり狩りに出かけた少女が事件に巻き込まれる小説を読んでもらいたいと思いました。



図書館建設サポーター　　一般社団法人ギブアウエイ様

プロジェクトサポーター　フェリシモ基金事務局様　　矢東タイヤ様

KAWASHO FOODS (GULF)FZE 様